

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 2 columns: Field Name (e.g., 事業所番号, 法人名) and Value (e.g., 4092800087, 社会福祉法人みんなの家会).

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

Table with 2 columns: 基本情報リンク先 and URL.

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: Field Name (e.g., 評価機関名, 所在地) and Value (e.g., 公益社団法人福岡県介護福祉士会).

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設に入所してもその人らしさを失ってほしくない職員全員が考えています。家庭的な雰囲気を大切に、利用者様が安心して過ごせる空間作りを努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は住宅街の中に位置しており、2階建ての1階部分を1ユニットのグループホームに改修利用している。庭には梅・桜の大木・モクレン・藤の花が植えられており四季の移り変わりを感じることができる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: Item No., Item Description, Achievement (Yes/No/Partial), and Evaluation. Rows 58-64 on the left, 65-70 on the right.

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼時に理念の唱和を行い、理念に沿った介護を心がけている	理事長の利用者にゆったり過ごしてもらいたいという思いで作られた理念「ゆったり のんびり ほのぼの」の目的を職員は理解している。利用者が安心してゆっくり過ごしてもらえるように、職員は寄り添うケアの実践に心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会組織の隣組に加入している 地域の防災訓練に参加したり、地域パトロールに毎月参加したりしている ご近所との挨拶や会話を大切にし、繋がりを持つようになっている	自治会に加入しており、コロナ禍前は地域の行事に利用者も参加したり、事業所の夏祭り等に近隣の方を招き交流ができていたりしていた。現在は職員が自治会の行事に参加し関係を絶やさないようにしている。近隣の方からは、たまに畑で採れた野菜を頂くことがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	隣組の総会にて当施設の説明や介護に関する質問を受け、相談方法を話している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、感染症対策のため、会議はみなしとなっているが、毎回報告書を行政・地域代表・民生委員の方々にお渡しし、質問や意見を取り入れている	コロナ禍で市の方針により令和5年までは書面での実施となっており2ヶ月に1回ヒヤリハットや近況等を記した報告書を市や運営推進会議の委員に送付している。これまでに意見などをいただく事例はなく、今後は出された意見などを運営に活用していきたい意向である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所の介護課に足を運んでいる みなしではあるが運営推進会議の報告書を地域代表・民生委員の方々にお渡しし、質問・意見を取り入れている	書面で開催している運営推進会議の報告書を市役所の担当者へ持参した折に、報告書の書き方で助言を受けたり、利用者が少なくなった時は募集の仕方等を相談したりしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設全体の課題とし、講習を行っており拘束は人権を侵す行為として認識している 利用者の安全の為、感染症対策として時間を決めて玄関の施錠をすることはあるが、十分に注意している	身体拘束検討シートで職員一人ひとりが振り返りを行っている。更に職員会議でも日々の業務の中で拘束行為のグレーゾーンがないかを細かく検討し、身体拘束について理解を深めている。外部研修に参加した職員は、資料を使い事業所で伝達研修を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を設定し指針を準備している 施設内研修計画の項目や職員会議にも取り上げている 入浴時のボディチェックを行っている 自己点検シートを使用し、職員に振り返りを促している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修で取り上げている 権利擁護及び差別・偏見に関する講義を行った	現在まで成年後見制度や日常生活自立支援事業を利用した事例はなく、内部研修により、管理者・職員は概ね制度を理解している。必要性がある時は関係者と話し合い、活用できるように支援する体制がある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	納得されるまで説明を行う 利用料金に関しては、分かりやすい別紙を作成した		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口を設置している 問題があると職員会議で話し合い、その結果をご家族に報告・相談している 年に1回ご家族アンケートを実施している	年1回家族へアンケート調査をしたり、電話や家族が事業所を訪問した時に意見や要望を確認している。事例として「災害時の対応が心配」という意見があり、避難訓練の見直しを行う予定である。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の議題にあげ、その結果を法人の管理者会議で報告している 改善すべき点は速やかに実施している	管理者は話しやすい雰囲気づくりを心掛けており職員は意見や提案を話しやすい関係にある。今までにシャワーチェアの買い替えや掃除用具の買い替え、レクリエーションに使う消耗品等の購入を提案した事例があり、入浴介助時の安全や、業務の効率化等に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課表を使用し客観的に職員を評価している また年に2回職員面談を行っている 職員が不利にならないよう努めている 適材適所を考慮しチームワークを大切にしている		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員募集を行う際、年齢・性別・資格を不問とする 希望休や有給はお互いの職員のシフト状態で話し合い、ほぼ叶えている 施設外研修の希望があれば、勤務表に反映させ、参加しやすいよう配慮している	現在2名の男性職員が勤務している。職員が働きやすいように家庭の状況に合わせ勤務調整をしている。希望休暇も取りやすく研修参加の希望があれば参加できるように配慮している。職員の特技や能力は、レクリエーション等業務の中で活かされている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	施設内で研修を行っている 職員会議でも議題で上げ話し合っている	管理者が、事業所内で人権教育を行っている。また職員会議でも年に3～4回守秘義務や接遇マナー等を議題に取り上げ人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画や職員会議にも取り上げている リーダークラス以上の者が担当して作成し、教育を行っている 面談時に年間目標と次の面談までの目標をたて、実施している		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	合同の研修・勉強会を行っている グループホーム協議会Dブロックや市内のGH会に参加している		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	可能な場合は利用前に本人と面会をさせてもらったり、ご家族やその時のケアマネジャーから情報をもらい、職員で共有している また、面会にはケアマネジャーやリーダーを同席させている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と入所するにあたって納得されるまで説明している		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族が必要とする介護を行う また、よりよいサービスがあれば視点を変えた提案をする		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員が共に生活をするという意識を持っている 行事や調理・掃除と一緒に 行う場面があり、利用者様から教わることも 少なくない		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時近況報告を行っている 遠方で来られない方には、電話にて報告を行っている ご家族が出来そうなことは提案し、ご家族から介護を奪わないようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在、感染症対策のため、ルール化した面会や電話での対応を行っている	コロナ禍で利用者の買い物や地域行事への参加が思うように出来なくなったが、家族より許可の得られた友人の面会や、友人や家族へ電話を繋いだり、家族へ年賀状を書いてもらったりと工夫をし関係性が途切れないように支援している。また昨年より馴染みの場所へ花見に出かける支援は再開している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人の個性を把握し、摩擦が起きないように心がけている		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近くに来たと言われ、お土産や、果物・野菜などを持ってきていただける利用相談にも来られる		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話から希望や意向を把握するように努めている ケース会議にて検討している	会話が少ない利用者は、家族が訪問時や毎月の郵便物や電話連絡時などに希望等を聞いたり、利用者本人の表情や行動等から本人の希望していることや思いの把握に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際、ご家族からの聞き取りを管理者・ケアマネージャーが行っている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調の変化や心境の変化、ADLなど、情報の共有を大切にしている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・ご家族からの聞き取りを基にケアプランを作成し、ご家族へ説明、理解を得て署名をもらっている。また、介護を行う上で、新たな発見や意見が職員から出た時はケアプランに反映させている	全職員が参加するケア会議や職員会議で利用者について新しい気づきや変化があり、ケアプランの変更の必要があれば家族等の意見も聞きケアプランに反映させている。日々の申し送りでも利用者に変化があれば職員間で共有し、軽微な修正をするなど現状に即したケアプランを作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝夕の引継ぎや申し送りを利用して情報を共有している		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の意見を最優先している ルール化した面会体制ではあるが、看取りや入所間もない利用者には柔軟な面会の対応を行っている		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	グループホームに入所している為、また、感染症対策の為、介護としての地域資源を活用する場面はほぼないが、地域のお祭りや敬老会などには参加している		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	グループホームの主治医に受診・往診してもらっているが強制はしていない グループホームの主治医以外の受診はご家族に頼んでいるが、職員が同行する場合もある 同行しない場合も情報は教えてもらっている	協力医は月1回往診しており、5～6名が受診している。週1回歯科から口腔ケアの往診もある。協力医以外の受診については原則家族に通院介助をお願いしており、家族が同行できない時は職員が同行し、受診結果を家族へ報告し共有している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携している看護師が週1回来園し、利用者全員の状況を把握している 緊急時には24時間連絡や駆け付けられる体制をとっている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は病院のケースワーカーと連携をとり、情報を取り合っている また、入院中も面会可能な場合は、面会させてもらい、ご家族が面会に行った際も状態を教えてもらっている		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族には、看取りの方針を説明し、何度も話し合いを行い、ホームで可能なことを理解してもらう	昨年度は4名の看取りをしており、今年度は1名の看取りをしている。日頃から訪問看護師とは、24時間連携が取れ、看取り期には医師とも常に連絡が取れる体制がある。居室で寄り添われる家族から希望があれば、寝具の貸与や食事の提供も可能である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内研修やホームにて救命救急の講習を受けている 応急処置の手順書、緊急時の連絡方法手順書を作成している 管理者が事故防止委員長である為、急変時の対応や、一時救命の必要性は十分に心得ている		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	指針・マニュアル・総括表を作成し、職員教育に使用している 2か月に一度避難訓練を実施、夜間想定訓練も行っている	火災時の消火や地震について夜間を想定した訓練も行っている。特に災害発生時に混乱することなく、まず第一に通報をすることが重要であることから、消防署員の指導の下に通報訓練をしている。避難訓練で利用者と建物の外に避難したり、近隣住民の協力をお願いするまでに至っていない。	有事の際、スムーズな避難誘導ができるよう、訓練時から利用者と行動したり近隣の人的支援を想定した避難訓練のあり方について検討することが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、人格を尊重した接し方、話し方を心がけている 施設内研修や職員会議でも議題に取りあげている	職員会議等で利用者の人格の尊重等を確認している。支援の場において相応しくない発言など見受けられた場合は、職員間で確認しあえている。トイレ誘導時は本人だけ聞こえる様に声かけをしている。記録は外部から見えないように配慮しながら対応しており、個人情報等書類は職員室のキャビネットにて保管している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	アンケートを利用したり、職員が利用者に尋ね、意思の確認を行う 入居前の暮らしに近づけるように支援している		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人のペースを大切にしている 時間に合わせず、利用者にあわせるよう、心がけている		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今までの趣味や生活に沿った服装をしてもらっている また、行事や外出の際、身だしなみやおしゃれの支援をしている		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査を行っている 内容を普段の利用者との会話の中で聞き取り、メニュー取り入れられている 月に1度調理レクレーションを行ったり、季節の行事の食事会に利用者のリクエストを取り入れたりしている	月に1度の調理レクレーションでは、利用者と職員と一緒に、お好み焼きや焼そばを調理して楽しく会食できる支援をしている。日常は、栄養管理された外注の配食サービスを利用しており、職員が副食の温め、盛り付けをしている。主食は事業所で炊飯している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外部栄養管理士と施設栄養管理士が話し合い、メニューを作成している 利用者に合わせ、キザミ食やミキサー食を用意している 場合により、栄養補助食品を飲まれている 水分摂取量には注意し食事以外にも1・2Lを飲んでいただくようにしている		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週に一度歯科往診を行っている 歯磨きが困難な利用者様に対しては口腔ケアウエットティッシュで拭き取っている		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的に声掛けを行い、トイレでの排泄を促している 利用者から訴えがあった場合、即対応している	一人ひとりの毎日の排泄チェック表を作成している。利用者の体動や表情等でトイレに気づいた時は、本人の耳元で声掛けして行くようにしており、常に気持ちよく過ごせるように排泄の自立支援に取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人に合わせた水分補給を行っている 食事の検討も行っている 適度な運動も心がけている それでも排泄困難な方は医師や看護師に相談し、主治医からの投薬も行っている		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の意思を尊重している 入浴前にはバイタルチェックと表情の確認を行っている 入浴が衛生管理目的だけでなく、リフレッシュできる環境になるように取り組んでいる	毎日入浴ができる体制があり、利用者は週に2～3回は必ず入浴している。希望があればいつでも入浴可能である。同性職員の介助者を希望する場合や、シャンプーの好みや季節のゆず湯などは、できる限り利用者の要望に沿い、楽しく入浴してもらえるように支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の今まで過ごしてきた生活のリズムを尊重している 夜間眠れない時は職員と一緒にお茶を飲んだりしている 場合により、主治医に相談し、投薬も行っている		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からのお薬手帳を利用して把握している 判らない時は薬剤師に相談し、説明を受けている 一時的な薬が処方された時は誰が見てもわかるように、付箋などを薬ケースに貼るなどして服薬ミスがないように取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の趣味や特技を把握して余暇活動に発揮してもらい 散歩やドライブ等を行い、施設内にとどまらず、外の空気にも触れてもらう 家事お手伝いもしてもらい、達成感を持ってもらうよう声かけもやっている		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族や本人から情報を得て何を望んでいるか理解し外出している 季節行事にはほぼ全員参加している	天気の良い日には、事業所の周辺を散策したり、梅の花や桜の開花時期など、季節の花見に車いすの利用者も一緒に出かけている。日常的に外気に触れる機会を設けている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金を持っている利用者もなく、感染症対策のため、本人自身が買い物する機会は少ない 必要な物や本人が希望した物はご家族が買って来られている		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される利用者にはご家族の了解を得て、電話や本人の携帯を使用してもらっている またご家族や知人が遠方にいる方は本人が暑中見舞いや年賀状を出すこともある		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースでトラブルが起きないように配慮している 季節の花や飾りで和めるよう工夫している 整理整頓を心がけ、不快な臭いや安全にも配慮している	事業所内の共用空間は快適な温度に設定している。リビングではテレビを観たりぬいえを楽しむなど各々がゆっくり過ごせる環境がある。数人でソファに掛けて談話できる場所もあり、季節の花やお雛様が飾られ生活の中で季節の移り変わりを感じてもらえる工夫がある。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に過ごせる環境を心がけている 食事時間でも希望されれば居室で食事を摂ってもらっている		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使い慣れた物を使ってもらっている 特に居室の備品、飾りつけや服装は本人の意思を大切にしている	本人の好みに応じて畳の部屋とフローリングの部屋を選ぶことができる。ベッドや収納家具は利用者の好みで持ち込んだり事業所の備品を利用したりすることもできる。居室には仏壇の持ち込みも可能で、本人が居心地良く過ごせるよう支援している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面は十分に確保し、利用者が力を発揮できる環境を作っている 台所の手伝いや、庭・室内掃除などのお手伝いを進んでもらっている 居室の様様替えは自由にしてもらっている		